
村山市障がい者福祉プラン（第5次）
策定に係るアンケート調査 報告書

令和6年3月

村山市

目次

第1 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査の設計	2
3 回収状況	2
4 報告書を見る際の注意事項	2
第2 調査結果	3
1 調査票の記入者及び対象者の属性について	4
2 住まいや暮らしについて	7
3 障がい福祉サービスなどの利用について	20
4 日中活動や就労について	27
5 周囲の方たちとのつながりについて	38
6 災害時の避難や防犯について	42
7 障がい者への理解や権利について	46
8 市(県)等の取組みについて	49
9 自由意見について	51

第Ⅰ 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、令和6年度からの新たな「村山市障がい者福祉プラン(第5次)」の策定を行う際の基礎資料を得ることを目的として実施しました。

2 調査の設計

項目	内容
ア 対象者	村山市内にお住まいの身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者及び障がい児通所支援の利用者
イ 調査地域	村山市内全域
ウ 調査方法	郵送配布・郵送回収(一部、施設を通じた配布・回収)
エ 調査期間	令和5年11月11日~11月27日 (12月22日到着分まで集計対象)
オ 調査内容	①障がい者自身のことについて ②住まいや暮らしについて ③障がい福祉サービスなどの利用について ④日中活動や就労について ⑤周囲の方たちとのつながりについて ⑥災害時の避難や防犯、感染症対策について ⑦障がい者への理解や権利について ⑧市(県)等の取組について

3 回収状況

①配布数(通)	②回収数(通)	③回収率(%)
700	377	53.9%

4 報告書を見る際の注意事項

- 図表中の「n」は、その設問の回答者数を表します。
- 図表中の数字の単位は「%」です。
- 集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢がひとつだけの場合でも、選択肢の数値(%)をすべて合計しても100.0%にならない場合があります。
- 回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100.0%を超えることがあります。
- 回答が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される場合があるため、文章中の分析を省略している場合があります。

第 2 調查結果

1 障がい者自身のことについて

(1) 調査票の記入者

問1 回答していただくのは、どなたですか。(○は1つだけ)	
●	調査票の記入者は、全体では「本人」が60.7%と最も高く、次いで「本人の家族」が30.8%、「家族以外の介助者」が1.3%となっています。
●	手帳所持状況別にみると、知的障がいは「本人の家族」が、精神障がいは「本人」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
本人	60.7	65.5	32.7	73.3
本人の家族	30.8	25.7	63.6	23.3
家族以外の介助者	1.3	1.3	1.8	3.3
不明・無回答	7.2	7.6	1.8	0.0

(2) 対象者の属性

① 性別

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)	
●	性別は、全体では「女性」が53.3%となり、「男性」の45.9%を上回っています。
●	手帳所持状況別にみると、知的障がい及び精神障がいは「男性」の割合が高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
男性	45.9	42.4	58.2	76.7
女性	53.3	57.2	41.8	23.3
不明・無回答	0.8	0.3	0.0	0.0

② 年齢

問3 あなたの年齢をお答えください。(令和5年11月1日現在)(数字を記入)	
●	年齢は、全体では「65歳以上」が67.4%と最も高く、次いで「18~64歳」が27.6%、「0~17歳」が3.2%となっています。
●	手帳所持状況別にみると、身体障がいは「65歳以上」の割合が他の障がいよりも高くなっています。知的障がい及び精神障がいは「18~64歳」の割合が最も高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
0~17歳	3.2	0.7	16.4	0.0
18~64歳	27.6	18.4	70.9	66.7
65歳以上	67.4	79.6	10.9	33.3
不明・無回答	1.9	1.3	1.8	0.0

③ 所持している手帳について

③-1 手帳の種類

問4 あなたは次の手帳などを持っていますか。持っている場合はその内容についてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

- 手帳の種類は、全体では「身体障害者手帳」が80.6%と最も高く、次いで「療育手帳」が14.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が8.0%となっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
身体障害者手帳	80.6	100.0	29.1	30.0
療育手帳	14.6	5.3	100.0	3.3
精神障害者保健福祉手帳	8.0	3.0	1.8	100.0
自立支援医療受給者証 (精神通院)	1.6	0.7	1.8	13.3
不明・無回答	3.7	0.0	0.0	0.0

③-2 身体障害者手帳の等級、種別

- 身体障害者手帳の等級は、「1級」が28.3%と最も高く、次いで「4級」が23.0%、「5級」が14.5%となっています。
- 障がいの種別は、「肢体不自由(下肢)」が36.8%と最も高く、次いで「内部障がい(心臓、腎臓、呼吸器など)」が31.9%、「肢体不自由(上肢)」が8.9%となっています。

【身体障害者手帳の等級】

	(%)	
	身体障がい n=304	
1級	28.3	
2級	7.6	
3級	12.5	
4級	23.0	
5級	14.5	
6級	7.6	
不明・無回答	6.6	

【障がいの種別】

	(%)	
	身体障がい n=304	
視覚障がい	7.9	
聴覚・平衡機能障がい	8.6	
音声・言語・そしゃく機能障がい	5.9	
肢体不自由(上肢)	8.9	
肢体不自由(下肢)	36.8	
肢体不自由(体幹)	7.9	
内部障がい(心臓、腎臓、呼吸器など)	31.9	
不明・無回答	10.5	

③-3 療育手帳の等級

- 療育手帳の等級は、「B」が60.0%となり、「A」の30.9%を上回っています。

	(%)	
	知的障がい n=55	
A	30.9	
B	60.0	
不明・無回答	9.1	

③-4 精神障害者保健福祉手帳の等級

- 精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が40.0%と最も高く、次いで「3級」が33.3%、「1級」が26.7%となっています。

(%)

	精神障がい n=30
1級	26.7
2級	40.0
3級	33.3
不明・無回答	0.0

④ 発達障がいの診断状況

④-1 発達障がいの診断

問5 あなたは発達障がいと診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

- 発達障がいの診断は、全体では「ある」が11.7%となり、「ない」は79.0%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい及び精神障がいは「ある」が4~5割台となり、身体障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
ある	11.7	2.0	52.7	40.0
ない	79.0	88.2	41.8	50.0
不明・無回答	9.3	9.9	5.5	10.0

④-2 発達障がいと診断されたときの診断名

【問5で「1」を選択した場合にお答えください。】

問5-1 発達障がいと診断されたときの診断名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- 発達障がいと診断されたときの診断名は、「広汎性発達障がい(自閉症、アスペルガー症候群など)」が70.5%と最も高く、次いで「その他」が22.7%、「注意欠陥・多動性障がい」が9.1%となっています。

(%)

	全体 n=44	身体障がい n=6	知的障がい n=29	精神障がい n=12
広汎性発達障がい(自閉症、アスペルガー症候群など)	70.5	16.7	73.1	100.0
注意欠陥・多動性障がい	9.1	33.3	7.7	0.0
学習障がい	6.8	0.0	7.7	9.1
その他	22.7	66.7	19.2	0.0
不明・無回答	2.3	0.0	3.8	0.0

2 住まいや暮らしについて

(1) 現在の暮らし

① 現在の暮らし

問6 あなたは現在どのように暮らしていますか。(○は1つだけ)

家族と暮らしている場合は、同居されている方をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- 現在の暮らしは、全体では「家族と暮らしている」が76.9%と最も高く、次いで「一人で暮らしている」が10.3%、「病院に入院している」が2.9%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいでは「家族と暮らしている」が約9割と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
一人で暮らしている	10.3	11.2	1.8	16.7
家族と暮らしている	76.9	76.3	90.9	66.7
グループホームで暮らしている	1.6	1.8	1.8	0.0
福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしている	1.9	2.0	0.0	0.0
病院に入院している	2.9	2.3	3.6	13.3
その他	0.5	0.7	0.0	0.0
不明・無回答	5.8	5.9	1.8	3.3

② 同居者

- 同居者は、全体では「配偶者」が46.6%と最も高く、次いで「子ども・孫(その配偶者含む)」が44.8%、「父母・祖父母」が27.6%、「兄弟・姉妹(その配偶者含む)」が10.7%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、身体障がいは「配偶者」「子ども・孫(その配偶者含む)」の割合が他の障がいよりも高くなっています。知的障がい及び精神障がいは「父母・祖父母」の割合が最も高くなっています。

(%)

	全体 n=290	身体障がい n=232	知的障がい n=50	精神障がい n=20
父母・祖父母	27.6	16.4	72.0	50.0
配偶者	46.6	54.7	4.0	20.0
兄弟・姉妹(その配偶者含む)	10.7	5.6	40.0	20.0
子ども・孫(その配偶者含む)	44.8	53.4	10.0	20.0
不明・無回答	4.5	3.4	10.0	5.0

(2) 現在の住まいについて不便に感じていること

【問6で「1」「2」「3」のいずれかを選択した場合にお答えください。】

問7 あなたが現在の住まいについて不便に感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 現在の住まいについて不便に感じていることは、全体では、「特にない」は57.6%と最も高くなっています。不満に感じていることでは、「住まいに段差があるなどバリアフリー化されていない」が24.5%、「住まいをバリアフリーに改造できない」が11.0%と高くなっています。
- 手帳所持状況別にみると、精神障がい者は「住まいをバリアフリーに改造できない」「部屋や廊下が狭い」「日当たりが悪い」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=335	身体障がい n=271	知的障がい n=52	精神障がい n=25
住まいに段差があるなどバリアフリー化されていない	24.5	27.7	17.3	24.0
住まいをバリアフリーに改造できない	11.0	12.2	9.6	20.0
部屋や廊下が狭い	4.8	4.8	7.7	20.0
日当たりが悪い	5.1	5.2	5.8	12.0
家賃などの費用が高い	2.1	1.1	3.8	8.0
その他	4.8	4.8	1.9	16.0
特にない	57.6	54.6	63.5	48.0
不明・無回答	6.0	5.9	9.6	0.0

(3) 将来の希望する生活

【問6で「4」または「5」を選択した場合にお答えください。】

問8 あなたは将来、どのような生活をしたいですか。(○は1つだけ)

- 将来の希望する生活は、全体では「今のままでよい」が61.1%と最も高く、次いで「家族と一緒に生活したい」が22.2%、「グループホームなどを利用したい」が16.7%となっています。

(%)

	全体 n=18	身体障がい n=13	知的障がい n=2	精神障がい n=4
今のままでよい	61.1	61.5	100.0	50.0
グループホームなどを利用したい	16.7	7.7	0.0	50.0
家族と一緒に生活したい	22.2	0.0	0.0	0.0
一般の住宅で一人暮らしをしたい	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0
不明・無回答	0.0	0.0	0.0	0.0

(4) 地域で生活するために必要なこと

問9 地域で生活するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 地域で生活するために必要なことは、全体では「経済的な負担の軽減」が52.8%と最も高く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が38.2%、「在宅で医療的ケアが適切に利用できること」が31.3%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい者は「医療的ケアや行動障がいなどに専門的に対応できる人材の確保及び養成」「差別などをなくすための福祉教育の推進」「地域住民などの理解」が、精神障がい者は「障がい者に適した住居の確保」「経済的な負担の軽減」「相談対応などの充実」「情報伝達やコミュニケーションについての支援」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
在宅で医療的ケアが適切に利用できること	31.3	33.9	20.0	36.7
障がい者に適した住居の確保	17.0	14.5	21.8	46.7
必要な在宅サービスが適切に利用できること	38.2	39.1	40.0	36.7
生活訓練などの充実	11.7	9.5	23.6	20.0
医療的ケアや行動障がいなどに専門的に対応できる人材の確保及び養成	18.6	17.1	30.9	20.0
差別などをなくすための福祉教育の推進	19.4	16.4	38.2	26.7
経済的な負担の軽減	52.8	50.7	54.5	60.0
相談対応などの充実	27.6	23.0	43.6	53.3
地域住民などの理解	23.6	19.7	45.5	30.0
情報伝達やコミュニケーションについての支援	17.0	13.5	29.1	36.7
障がい者に配慮した道路・建物・駅などの整備	22.3	24.3	18.2	20.0
その他	2.9	3.3	3.6	0.0
不明・無回答	18.3	19.7	12.7	10.0

(5) 日常生活の介助

問 10 日常生活で、次の①から⑩のようなことについて、手助けが必要ですか。
(①から⑩それぞれに○を1つ)

① 食事

- 食事の介助は、全体では「一人でできる」が73.7%と最も高く、次いで「一部介助が必要」が13.0%、「全部介助が必要」が5.3%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい及び精神障がいは「一部介助が必要」の割合が身体障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	5.3	5.6	9.1	6.7
一部介助が必要	13.0	11.5	21.8	26.7
一人でできる	73.7	73.7	65.5	63.3
不明・無回答	8.0	9.2	3.6	3.3

② 排せつ

- 排せつの介助は、全体では「一人でできる」が73.7%と最も高く、次いで「一部介助が必要」が9.8%、「全部介助が必要」が6.9%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい及び精神障がいは「一部介助が必要」の割合が身体障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	6.9	7.2	9.1	6.7
一部介助が必要	9.8	9.2	20.0	16.7
一人でできる	73.7	72.4	65.5	70.0
不明・無回答	9.5	11.2	5.5	6.7

③ 入浴

- 入浴の介助は、全体では「一人でできる」が65.8%と最も高く、次いで「一部介助が必要」が13.5%、「全部介助が必要」が10.9%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい及び精神障がいは「一部介助が必要」の割合が身体障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	10.9	11.5	12.7	10.0
一部介助が必要	13.5	12.5	27.3	23.3
一人でできる	65.8	64.8	54.5	60.0
不明・無回答	9.8	11.2	5.5	6.7

④ 衣服の着脱

- 衣服の着脱の介助は、全体では「一人でできる」が70.8%と最も高く、次いで「一部介助が必要」が12.2%、「全部介助が必要」が6.9%となっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	6.9	7.2	9.1	6.7
一部介助が必要	12.2	12.2	16.4	13.3
一人でできる	70.8	69.1	67.3	73.3
不明・無回答	10.1	11.5	7.3	6.7

⑤ 身だしなみ

- 身だしなみの介助は、全体では「一人でできる」が65.0%と最も高く、次いで「一部介助が必要」が17.0%、「全部介助が必要」が8.0%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい及び精神障がいは「一部介助が必要」の割合が身体障がいよりも高くなっています。また、知的障がいは「全部介助が必要」が1割台半ばと他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	8.0	7.9	14.5	6.7
一部介助が必要	17.0	13.8	38.2	30.0
一人でできる	65.0	66.4	41.8	60.0
不明・無回答	10.1	11.8	5.5	3.3

⑥ 家の中の移動

- 家の中の移動の介助は、全体では「一人でできる」が74.0%と最も高く、次いで「一部介助が必要」が7.7%、「全部介助が必要」が7.4%となっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	7.4	8.2	7.3	6.7
一部介助が必要	7.7	7.9	9.1	6.7
一人でできる	74.0	71.1	78.2	80.0
不明・無回答	10.9	12.8	5.5	6.7

⑦ 外出

- 外出の介助は、全体では「一人でできる」が50.4%と最も高く、次いで「一部介助が必要」が21.2%、「全部介助が必要」が19.9%となっています。①から⑩の中で、最も日常生活の介助の必要の割合が高くなっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい「全部介助が必要」が約3割と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	19.9	19.4	30.9	20.0
一部介助が必要	21.2	19.4	27.3	23.3
一人でできる	50.4	51.3	36.4	50.0
不明・無回答	8.5	9.9	5.5	6.7

⑧ 家族以外の方との意思疎通

- 家族以外の方との意思疎通の介助は、全体では「一人でできる」が60.7%と最も高く、次いで「一部介助が必要」が21.0%、「全部介助が必要」が8.2%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい「一部介助が必要」が4割台半ばと他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	8.2	6.9	21.8	16.7
一部介助が必要	21.0	17.1	45.5	23.3
一人でできる	60.7	63.8	29.1	50.0
不明・無回答	10.1	12.2	3.6	10.0

⑨ 金銭管理

- 金銭管理の介助は、全体では「一人でできる」が59.4%と最も高く、次いで「全部介助が必要」が19.1%、「一部介助が必要」が11.9%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい「全部介助が必要」が約5割と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	19.1	15.8	49.1	20.0
一部介助が必要	11.9	9.9	20.0	23.3
一人でできる	59.4	63.2	27.3	53.3
不明・無回答	9.5	11.2	3.6	3.3

⑩ 薬の管理

- 薬の管理の介助は、全体では「一人できる」が61.8%と最も高く、次いで「全部介助が必要」が17.8%、「一部介助が必要」が10.1%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「全部介助が必要」が4割強と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
全部介助が必要	17.8	14.8	43.6	16.7
一部介助が必要	10.1	8.2	16.4	16.7
一人できる	61.8	65.5	30.9	63.3
不明・無回答	10.3	11.5	9.1	3.3

(6) 介助してくれる方

【問10の①から⑩のいずれかで「1全部介助が必要」または「2一部介助が必要」を選択した場合にお答えください。】

問11 あなたを介助してくれる方は主にどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- 介助してくれる方は、全体では「同居の親族」が64.7%と最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」が19.3%、「別居の親族」が7.5%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、身体障がいは「ホームヘルパーや施設の職員」が2割強と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=187	身体障がい n=139	知的障がい n=41	精神障がい n=20
同居の親族	64.7	64.7	65.9	55.0
別居の親族	7.5	8.6	0.0	5.0
ホームヘルパーや施設の職員	19.3	23.0	9.8	15.0
その他の方(ボランティアなど)	1.1	0.0	2.4	10.0
不明・無回答	16.0	13.7	22.0	20.0

(7) 介助してくれる親族について (性別、年齢、健康状態)

【問 11 で「1同居の親族」「2別居の親族」のいずれかを選択した場合にお答えください。】

問 12 特に中心となって介助をしている方の続柄、年齢、性別、健康状態をお答えください。

① 「あなた」からみた続柄

① 「あなた」からみた続柄 (○は1つだけ)

- 「あなた」からみた続柄は、全体では「配偶者 (夫または妻)」が 35.2% と最も高く、次いで「父母」が 32.0%、「子ども」が 21.1% となっています。
- 手帳所持状況別にみると、身体障がいでは「配偶者 (夫または妻)」「子ども」の割合が他の障がいよりも高くなっています。知的障がい及び精神障がいは「父母」の割合が最も高くなっています。

	(%)			
	全体 n=128	身体障がい n=97	知的障がい n=27	精神障がい n=11
父母	32.0	16.5	81.5	63.6
祖父母	0.0	0.0	0.0	0.0
兄弟・姉妹	4.7	5.2	3.7	18.2
配偶者(夫または妻)	35.2	42.3	3.7	18.2
子ども	21.1	26.8	7.4	0.0
その他	4.7	6.2	3.7	0.0
不明・無回答	2.3	3.1	0.0	0.0

② 年齢

② 年齢(令和5年11月1日現在)(数字を記入)

- 年齢は、全体では「60～69歳」が31.3%と最も高く、次いで「70～79歳」が21.1%、「80～89歳」が13.3%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「40～49歳」の割合が最も高くなっています。

(%)

	全体 n=128	身体障がい n=97	知的障がい n=27	精神障がい n=11
9歳以下	0.0	0.0	0.0	0.0
10～19歳	0.8	1.0	0.0	0.0
20～29歳	2.3	2.1	3.7	9.1
30～39歳	0.0	0.0	0.0	0.0
40～49歳	10.9	4.1	33.3	0.0
50～59歳	10.9	11.3	18.5	9.1
60～69歳	31.3	30.9	29.6	45.5
70～79歳	21.1	25.8	3.7	18.2
80～89歳	13.3	16.5	0.0	18.2
90歳以上	3.1	2.1	3.7	0.0
不明・無回答	6.3	6.2	7.4	0.0

③ 性別

③ 性別(○は1つだけ)

- 性別は、全体では「女性」が54.7%となり、「男性」の42.2%を上回っています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「女性」が8割弱と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=128	身体障がい n=97	知的障がい n=27	精神障がい n=11
男性	42.2	45.4	22.2	36.4
女性	54.7	50.5	77.8	63.6
不明・無回答	3.1	4.1	0.0	0.0

④ 健康状態

④ 健康状態(○は1つだけ)
<ul style="list-style-type: none"> ● 健康状態は、全体では「ふつう」が68.0%と最も高く、次いで「よい」が14.8%、「よくない」が14.1%となっています。 ● 手帳所持状況別にみると、件数は少ないものの、精神障がいでは「よくない」が5割台半ばと他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=128	身体障がい n=97	知的障がい n=27	精神障がい n=11
よい	14.8	12.4	18.5	9.1
ふつう	68.0	70.1	70.4	36.4
よくない	14.1	13.4	11.1	54.5
不明・無回答	3.1	4.1	0.0	0.0

(8) 1日の介助の時間

問 13 介助をしている時間は1日に何時間くらいですか。(○は1つだけ)
<ul style="list-style-type: none"> ● 1日の介助の時間は、全体では「0～2時間未満」が35.2%と最も高く、次いで「2～4時間未満」が16.4%、「10時間以上」が14.8%となっています。 ● 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「10時間以上」が約3割と最も高くなっています。

(%)

	全体 n=128	身体障がい n=97	知的障がい n=27	精神障がい n=11
0～2時間未満	35.2	39.2	11.1	27.3
2～4時間未満	16.4	16.5	14.8	27.3
4～6時間未満	5.5	3.1	18.5	9.1
6～8時間未満	6.3	6.2	11.1	0.0
8～10時間未満	5.5	4.1	7.4	9.1
10時間以上	14.8	12.4	29.6	18.2
その他	7.8	8.2	3.7	9.1
不明・無回答	8.6	10.3	3.7	0.0

(9) 介助をしていて困ること・不安なこと

【問 11 で「1」「2」のいずれかを選択した場合にお答えください。】

問 14 介助をしていて困ること、不安なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 介助をしていて困ること・不安なことは、全体では「将来的に介助ができなくなった時のこと」が 58.6%と最も高く、次いで「買い物・外出が気軽にできないこと」が 32.0%、「仕事との両立」が 27.3%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「将来的に介助ができなくなった時のこと」「仕事との両立」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=128	身体障がい n=97	知的障がい n=27	精神障がい n=11
食事の介助	13.3	15.5	14.8	9.1
トイレの介助	18.0	20.6	14.8	18.2
入浴の介助	18.0	19.6	22.2	9.1
病気の看護	24.2	23.7	18.5	45.5
仕事との両立	27.3	22.7	48.1	18.2
家事・育児への影響	7.0	6.2	14.8	9.1
近所・友人付き合いへの影響	12.5	10.3	14.8	36.4
休む時間がない・休養がとれないこと	20.3	17.5	29.6	45.5
買い物・外出が気軽にできないこと	32.0	33.0	25.9	45.5
相談相手がないこと	10.2	5.2	25.9	18.2
介助の方法がわからないこと	5.5	6.2	7.4	9.1
将来的に介助ができなくなった時のこと	58.6	52.6	81.5	63.6
その他	7.8	8.2	18.5	9.1
特になし	12.5	14.4	3.7	9.1
不明・無回答	5.5	6.2	3.7	0.0

(10) 病気、休養、冠婚葬祭などで一時的に介助できない時の対応

【問 11 で「1」「2」のいずれかを選択した場合にお答えください。】

問 15 病気、休養、冠婚葬祭などで一時的に介助できない時は主にどうしていますか。(○は1つだけ)

- 病気、休養、冠婚葬祭などで一時的に介助できない時の対応は、全体では「家族・親族に介助を頼む」が68.0%と最も高く、次いで「何もあてがなく困っている」が9.4%、「障がい福祉サービスを利用する」が7.0%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「家族・親族に介助を頼む」が8割台半ばと他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=128	身体障がい n=97	知的障がい n=27	精神障がい n=11
家族・親族に介助を頼む	68.0	67.0	85.2	45.5
友人・知人に介助を頼む	0.8	1.0	0.0	0.0
障がい福祉サービスを利用する	7.0	8.2	7.4	0.0
ホームヘルパーに介助を頼む	1.6	2.1	0.0	0.0
ボランティアに介助を頼む	0.8	1.0	0.0	0.0
何もあてがなく困っている	9.4	7.2	3.7	36.4
その他	6.3	7.2	0.0	9.1
不明・無回答	6.3	6.2	3.7	9.1

(11) 障がいのある子どものために特に力を入れてほしい取組

【問 16 は、18 歳未満の方の介助をしている方がお答えください。】

問 16 障がいのある子どものために、市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 障がいのある子どものために特に力を入れてほしい取組は、全体では「障がい児のための専門的な教育の充実」「障がい児のための学童保育の充実」が同率で 80.0%と高く、次いで「療育内容や施設についての情報提供」が 60.0%となっています。

(%)

	17歳以下 n=10
早期診断・療育	30.0
診断後の具体的な指導、フォローアップ	50.0
幼稚園・保育所での受入れ	30.0
障がい児のための専門的な教育の充実	80.0
障がい児のための学童保育の充実	80.0
一時的な預かりや見守り	50.0
通園・通学などにおける送迎サービス	50.0
療育内容や施設についての情報提供	60.0
周囲および家族への障がいに関する教育	20.0
医療的ケアが必要な児童への支援	20.0
その他	10.0
不明・無回答	0.0

3 障がい福祉サービスなどの利用について

(1) 障害支援区分の認定

① 障害支援区分の認定状況

問 17 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)
<ul style="list-style-type: none"> ● 障害支援区分の認定状況は、全体では「受けていない」が63.9%と最も高く、次いで「区分1」が3.4%となっています。なお、「区分1」から「区分6」を合計した『受けている』は14.1%となっています。 ● 手帳所持状況別にみると、知的障がいは『受けている』が3割弱と他の障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
区分1	3.4	3.6	7.3	3.3
区分2	1.3	1.3	1.8	0.0
区分3	2.7	2.6	3.6	10.0
区分4	2.7	2.3	5.5	0.0
区分5	2.1	2.3	0.0	3.3
区分6	1.9	2.0	9.1	0.0
受けていない	63.9	63.8	47.3	70.0
不明・無回答	22.0	22.0	25.5	13.3

② 障害支援区分の認定を受けていない理由

【問 17 で、「7」を選択した場合にお答えください。】

問 17-1 障害支援区分の認定を受けていないのはなぜですか。(○は1つだけ)

- 障害支援区分の認定を受けていない理由は、全体では「障害支援区分のことがわからない」が46.5%と最も高く、次いで「今のところサービスを受ける必要がない」が43.2%、「障害支援区分の認定が必要なサービスを利用していない」が5.8%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい及び精神障がいは「障害支援区分のことがわからない」の割合が身体障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=241	身体障がい n=194	知的障がい n=26	精神障がい n=21
障害支援区分の認定が必要なサービスを利用していない	5.8	5.7	7.7	14.3
今のところサービスを受ける必要がない	43.2	44.8	34.6	28.6
障害支援区分のことがわからない	46.5	44.8	57.7	57.1
不明・無回答	4.6	4.6	0.0	0.0

(2) 介護保険サービスの利用状況

【問 18 は、40 歳以上の方がお答えください。】

問 18 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(○は1つだけ)

- 介護保険サービスの利用状況は、全体では「利用していない」が64.9%となり、「利用している」の27.3%を上回っています。
- 手帳所持状況別にみると、身体障がいは「利用している」が約3割と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=319	身体障がい n=287	知的障がい n=19	精神障がい n=21
利用している	27.3	29.6	10.5	19.0
利用していない	64.9	63.1	78.9	76.2
不明・無回答	7.8	7.3	10.5	4.8

(3) サービスの利用状況

問 19 あなたは次のサービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

- サービスの利用状況は、全体では「いずれも利用していない」が 45.1%と最も高くなっています。利用しているサービスでは、「医療費を給付するサービス」が 13.3%、「補装具を支給するサービス」が 9.8%と高くなっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい者は「相談支援を行うサービス」が、精神障がい者は「医療費を給付するサービス」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
在宅生活を支援するサービス	6.4	7.9	5.5	6.7
外出を支援するサービス	2.1	2.3	1.8	0.0
自立訓練を行うサービス	5.3	5.6	3.6	10.0
日常生活の支援を行うサービス	6.6	6.9	12.7	10.0
就労訓練を行うサービス	4.5	3.0	14.5	16.7
一時的に施設で預かるサービス	3.7	4.3	5.5	3.3
障がいのある児童が通所するサービス	2.9	1.0	12.7	0.0
障がいのある児童が施設に入所し、訓練等を受けるサービス	1.1	1.3	3.6	3.3
住まいの場を提供するサービス	2.4	2.0	3.6	0.0
相談支援を行うサービス	6.1	4.9	18.2	6.7
補装具を支給するサービス	9.8	12.2	5.5	6.7
医療費を給付するサービス	13.3	13.5	14.5	20.0
いずれも利用していない	45.1	45.4	36.4	43.3
不明・無回答	16.4	16.8	10.9	10.0

(4) 利用しているサービスを満足しているか

① 利用しているサービスを満足しているか

【問 19 のいずれかのサービスを利用していると回答した場合にお答えください。】

問 20 利用しているサービスには満足していますか。(○は1つだけ)

- 利用しているサービスを満足しているかについては、全体では「満足している」が77.9%となり、「あまり満足していない」の18.6%を上回っています。
- 手帳所持状況別にみると、精神障がいでは「あまり満足していない」が4割強で他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=145	身体障がい n=115	知的障がい n=29	精神障がい n=14
満足している	77.9	80.0	75.9	57.1
あまり満足していない	18.6	16.5	20.7	42.9
不明・無回答	3.4	3.5	3.4	0.0

② 満足していない理由

【問 20 で、「2」を選択した場合にお答えください。】

問 20-1 満足していないのはどのような点ですか。下の枠内にお書きください。

- 満足していない理由は26件の記入があり、内容としては、用具費の拡大や自己負担金の軽減など、経済的な負担に関するものが比較的多くみられます。その他では、施設職員の対応や訪問回数が拡大など、サービスの質や量に関する意見などがみられます。

(5) 今後利用したいサービス

問 21 あなたが今後利用したいサービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 今後利用したいサービスは、全体では「医療費を給付するサービス」が 30.8%と最も高く、次いで「一時的に施設で預かるサービス」が 16.4%、「いずれも利用していない」が 15.1%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、精神障がいは「医療費を給付するサービス」が4割強と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
在宅生活を支援するサービス	13.8	14.8	12.7	16.7
外出を支援するサービス	12.2	12.5	16.4	10.0
自立訓練を行うサービス	8.8	6.6	14.5	23.3
日常生活の支援を行うサービス	12.5	12.5	20.0	16.7
就労訓練を行うサービス	6.9	2.0	29.1	23.3
一時的に施設で預かるサービス	16.4	16.8	27.3	10.0
障がいのある児童が通所するサービス	1.6	0.3	7.3	0.0
障がいのある児童が施設に入所し、訓練等を受けるサービス	2.1	1.3	9.1	3.3
住まいの場を提供するサービス	5.8	3.3	18.2	13.3
相談支援を行うサービス	12.7	9.5	29.1	26.7
補装具を支給するサービス	12.5	13.8	10.9	10.0
医療費を給付するサービス	30.8	31.3	25.5	43.3
いずれも利用していない	15.1	15.8	14.5	3.3
不明・無回答	24.1	25.0	12.7	13.3

(6) 現在の通院状況（リハビリ含む）

問 22 あなたの現在の通院状況(リハビリ含む)は次のうち、どれですか。(○は1つだけ)

- 現在の通院状況は、全体では「月に1～3日程度」が45.9%と最も高く、次いで「年に数回」が24.4%、「医療機関にかかっていない」が7.7%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「医療機関にかかっていない」が、精神障がいは「月に1～3日程度」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
ほぼ毎日	2.4	2.6	1.8	0.0
週に1日程度	6.6	7.6	1.8	3.3
月に1～3日程度	45.9	49.0	29.1	56.7
年に数回	24.4	24.0	29.1	16.7
入院中	2.9	2.6	5.5	10.0
医療機関にかかっていない	7.7	4.9	21.8	6.7
不明・無回答	10.1	9.2	10.9	6.7

(7) 医療を受ける上で困っていること

問 23 医療を受ける上で、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 医療を受ける上で困っていることは、全体では「特に困っていることはない」が 50.4%と最も高くなっています。困っていることとしては、「いくつもの病院に通わなければならない」が 12.2%、「医療機関までの交通手段が確保しにくい」が 11.4%と高くなっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい「医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない」が、精神障がいは「医療機関までの交通手段が確保しにくい」「専門的な治療をしてくれる病院が近くにない」「いくつもの病院に通わなければならない」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
通院や入院するときに付き添いをしてもらえる方がいない	5.3	4.6	9.1	13.3
医療機関までの交通手段が確保しにくい	11.4	11.2	7.3	26.7
医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない	8.0	5.6	23.6	13.3
医師・看護師などの指示や説明がよくわからない	7.4	5.9	12.7	13.3
専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	10.3	9.9	16.4	23.3
ちょっとした病気やケガのときに受け入れてくれる病院が近くにない	5.3	4.9	5.5	10.0
いくつもの病院に通わなければならない	12.2	11.8	12.7	26.7
気軽に往診を頼める医師がいない	6.1	4.9	7.3	16.7
その他	4.0	3.9	5.5	10.0
特に困っていることはない	50.4	52.3	41.8	26.7
不明・無回答	13.8	14.5	9.1	13.3

4 日中活動や就労について

(1) 外出の頻度

問 24 あなたは、どのくらいの頻度で外出しますか。(○は1つだけ)	
●	外出の頻度は、全体では「たまにしか外出しない」が 34.7%と最も高く、次いで「毎日外出する」が 25.5%、「1週間の半分以上外出する」が 23.9%となっています。
●	手帳所持状況別にみると、知的障がい者は「毎日外出する」が4割強と最も高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
毎日外出する	25.5	23.4	43.6	20.0
1週間の半分以上外出する	23.9	24.3	16.4	20.0
たまにしか外出しない	34.7	36.2	23.6	40.0
まったく外出しない	9.0	10.2	5.5	13.3
不明・無回答	6.9	5.9	10.9	6.7

(2) 外出時について

① 外出時の同伴者

【問 24-1 から 4 は、問 24 で「1」「2」「3」のいずれかを選択した場合にお答えください。】

問 24-1 外出時の状況についてうかがいます。あなたが外出する際の主な同伴者はいますか。いる場合、同伴者はどなたですか。(○は1つだけ)

- 外出時の同伴者は、全体では「配偶者（夫または妻）」が 29.3%と最も高く、次いで「一人で外出することが多い」が 24.6%、「子ども」が 14.8 となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が 6 割弱で最も高くなっています。精神障がいは「一人で外出することが多い」が 3 割強と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=317	身体障がい n=255	知的障がい n=46	精神障がい n=24
父母・祖父母・兄弟・姉妹	12.9	5.5	58.7	25.0
配偶者(夫または妻)	29.3	33.7	6.5	16.7
子ども	14.8	17.6	4.3	0.0
ホームヘルパーやガイドヘルパー、施設の職員	3.8	3.9	4.3	4.2
その他の方(ボランティアなど)	0.6	0.4	2.2	4.2
一人で外出することが多い	24.6	24.7	19.6	33.3
いない	11.7	11.8	4.3	16.7
不明・無回答	2.2	2.4	0.0	0.0

② 外出時の移動手段

【問 24-1 から 4 は、問 24 で「1」「2」「3」のいずれかを選択した場合にお答えください。】

問 24-2 外出する際の移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 外出時の移動手段は、全体では「自動車（自分で運転）」が43.5%と最も高く、次いで「自動車（無償で人に乗せてもらう）」が29.0%、「徒歩」が19.2%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「自動車（無償で人に乗せてもらう）」が5割強と最も高くなっています。

(%)

	全体 n=317	身体障がい n=255	知的障がい n=46	精神障がい n=24
徒歩	19.2	17.3	23.9	33.3
自転車	4.4	3.5	13.0	4.2
バイク	0.0	0.0	0.0	0.0
自動車(自分で運転)	43.5	47.8	10.9	41.7
自動車(無償で人に乗せてもらう)	29.0	25.5	52.2	25.0
自動車(生活サポート・福祉有償運送)	6.0	6.7	8.7	8.3
電車	4.4	2.7	8.7	12.5
路線バス	4.1	2.7	8.7	12.5
病院や施設のバス	2.5	2.4	6.5	0.0
車いす	3.5	4.3	0.0	4.2
歩行器・シルバーカー	3.8	4.3	0.0	4.2
タクシー	15.1	17.6	6.5	8.3
その他	8.5	8.2	17.4	0.0
不明・無回答	1.6	2.0	0.0	0.0

③ 外出の目的

【問 24-1 から 4 は、問 24 で「1」「2」「3」のいずれかを選択した場合にお答えください。】

問 24-3 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

- 外出の目的は、全体では「医療機関への受診」が 70.7%と最も高く、次いで「買い物」が 70.0%、「通勤・通学・通所」が 25.9%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいでは「通勤・通学・通所」が、精神障がいでは、「趣味やスポーツ」「散歩」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=317	身体障がい n=255	知的障がい n=46	精神障がい n=24
通勤・通学・通所	25.9	19.6	65.2	25.0
訓練やリハビリ	8.8	9.4	13.0	0.0
医療機関への受診	70.7	75.7	37.0	70.8
買い物	70.0	69.0	73.9	75.0
友人・知人に会う	22.4	26.3	4.3	16.7
趣味やスポーツ	13.6	11.8	10.9	37.5
グループ活動への参加	6.3	6.7	4.3	8.3
散歩	17.7	16.1	15.2	29.2
その他	7.6	7.8	8.7	4.2
不明・無回答	1.3	1.6	2.2	0.0

④ 外出時に困ること

【問 24-1 から 4 は、問 24 で「1」「2」「3」のいずれかを選択した場合にお答えください。】

問 24-4 外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 外出時に困ることは、全体では「外出にお金がかかる」が18.9%と最も高く、次いで「公共交通機関が少ない(ない)」が16.7%、「困った時にどうすればいいのか心配」が15.1%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい者は「困った時にどうすればいいのか心配」「周囲の目が気になる」が、精神障がい者は「外出にお金がかかる」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

	全体 n=317	身体障がい n=255	知的障がい n=46	精神障がい n=24
公共交通機関が少ない(ない)	16.7	14.9	23.9	25.0
列車やバスの乗り降りが困難	6.9	7.5	6.5	12.5
道路や駅に階段や段差が多い	11.7	13.7	6.5	8.3
切符の買い方や乗り換えの方法がわかりにくい	7.9	5.5	21.7	16.7
外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)	7.6	9.0	4.3	8.3
介助者が確保できない	4.4	3.1	8.7	16.7
外出にお金がかかる	18.9	17.6	21.7	50.0
周囲の目が気になる	7.9	4.7	26.1	20.8
発作など突然の身体の変化が心配	12.0	12.2	13.0	25.0
困った時にどうすればいいのか心配	15.1	10.2	43.5	29.2
障がい者駐車場が少ない、利用できない	12.9	15.3	6.5	0.0
案内表示がわかりにくい	5.7	4.3	17.4	4.2
その他	9.8	10.2	13.0	8.3
不明・無回答	30.3	32.5	10.9	12.5

(3) 外出をしていない理由

【問 24 で、「4」を選択した場合にお答えください。】

問 25 外出をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 外出をしていない理由は、全体では「歩行が困難」が 41.2%と最も高く、次いで「その他」が 29.4%、「トイレが心配」が 14.7%となっています。

(%)

	全体 n=34	身体障がい n=31	知的障がい n=3	精神障がい n=4
歩行が困難	41.2	38.7	0.0	25.0
耳が不自由	11.8	12.9	0.0	0.0
目が不自由	11.8	12.9	0.0	0.0
病気	8.8	6.5	0.0	25.0
トイレが心配	14.7	12.9	0.0	25.0
外での楽しみがない	0.0	0.0	0.0	0.0
交通手段がない	11.8	9.7	0.0	25.0
経済的に出られない	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	29.4	29.0	100.0	25.0
不明・無回答	20.6	22.6	0.0	50.0

(4) 通園、通学について

① 通園、通学の状況

問 26 あなたは保育園や幼稚園、学校、障害児通所支援の事業所などに通っていますか。(○は1つだけ)
<ul style="list-style-type: none"> ● 通園、通学の状況は、全体では「通っていない」が59.9%となり、「通っている」の5.0%を上回っています。 ● 手帳所持状況別にみると、知的障がいでは「通っている」が2割強と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
通っている	5.0	2.3	23.6	0.0
通っていない	59.9	59.9	50.9	73.3
不明・無回答	35.0	37.8	25.5	26.7

② 通園、通学で困っていること

問 26-1 通園・通学していて、困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)
<ul style="list-style-type: none"> ● 通園、通学で困っていることは、全体では「特にない」が47.4%と最も高くなっています。困っていることでは、「その他」が42.1%、「通うのが大変である」が15.8%と高くなっています。なお、「その他」については、学校に行きたがらない、発作等で通うのが難しいなど、様々な記述がみられます。

(%)

	全体 n=19	身体障がい n=7	知的障がい n=13	精神障がい n=0
通うのが大変である	15.8	14.3	23.1	0.0
トイレなどの施設が使いにくい	0.0	0.0	0.0	0.0
先生の理解・配慮が足りない	5.3	0.0	7.7	0.0
友だちができない	5.3	0.0	7.7	0.0
相談体制が十分でない	5.3	0.0	7.7	0.0
介助体制が十分でない	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後に利用できる場所がない	0.0	0.0	0.0	0.0
夏休みなどの長期休暇中に利用できる場所がない	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	42.1	28.6	53.8	0.0
特にない	47.4	57.1	30.8	0.0
不明・無回答	0.0	0.0	0.0	0.0

(5) 現在の就労について

① 就労状況

問 27 あなたは現在、働いていますか。(○は1つだけ)

- 就労状況は、全体では「働いていない」が61.5%となり、「働いている」の22.5%を上回っています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい者は「働いている」が4割と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
働いている	22.5	19.7	40.0	26.7
働いていない	61.5	65.1	49.1	53.3
不明・無回答	15.9	15.1	10.9	20.0

② 勤務形態

【問 27-1 から 2 は、問 27 で「1」を選択した場合にお答えください。】

問 27-1 どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)

- 勤務形態は、全体では「自営業、農林水産業など」が29.4%と最も高く、次いで「正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない」が20.0%、「就労継続支援事業所などの施設で福祉的支援を受けながら働いている」が18.8%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、身体障がい者は「自営業、農林水産業など」「正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない」が、知的障がい者は「就労継続支援事業所などの施設で福祉的支援を受けながら働いている」「正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある」が、精神障がい者は「パート・アルバイトなどの非常勤職員、派遣職員」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=85	身体障がい n=60	知的障がい n=22	精神障がい n=8
正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない	20.0	25.0	9.1	12.5
正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある	9.4	5.0	22.7	0.0
パート・アルバイトなどの非常勤職員、派遣職員	14.1	11.7	13.6	25.0
自営業、農林水産業など	29.4	40.0	0.0	12.5
就労継続支援事業所などの施設で福祉的支援を受けながら働いている	18.8	10.0	50.0	37.5
その他	8.2	8.3	4.5	12.5
不明・無回答	0.0	0.0	0.0	0.0

③ 仕事のことで不満

問 27-2 現在の仕事のことで不満に思っていることや、困っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 仕事のことで不満は、全体では「収入が少ない」が 34.1%と最も高く、次いで「その他」が 21.2%、「就労に伴い生じる生活リズム、体調管理などがむずかしい」が 11.8% となっています。

	全体 n=85	身体障がい n=60	知的障がい n=22	精神障がい n=8
通勤が大変である	8.2	5.0	22.7	25.0
トイレなどの施設が使いにくい	1.2	0.0	4.5	0.0
仲間がいない、友達ができない	8.2	3.3	22.7	12.5
収入が少ない	34.1	28.3	45.5	50.0
雇用形態が不安定	10.6	6.7	9.1	37.5
休みにくい	10.6	10.0	4.5	25.0
昇給や昇進が不平等である	7.1	5.0	9.1	12.5
まわりの人たちの理解が得られない	4.7	3.3	4.5	12.5
仕事が自分に向いていない	2.4	0.0	0.0	25.0
就労に伴い生じる生活リズム、体調管理 などがむずかしい	11.8	10.0	4.5	37.5
その他	21.2	18.3	36.4	12.5
不明・無回答	28.2	36.7	13.6	0.0

(6) 今後の就労について

① 今後の就労希望

問 28 あなたは今後、収入を得る仕事をしたい(継続したい)と思いますか。(○は1つだけ)

- 今後の就労希望は、全体では「仕事はしたくない、できない」が51.2%となり、「仕事をしたい(継続したい)」の26.5%を上回っています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいでは「仕事をしたい(継続したい)」が6割と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
仕事をしたい(継続したい)	26.5	20.4	60.0	36.7
仕事はしたくない、できない	51.2	55.6	25.5	46.7
不明・無回答	22.3	24.0	14.5	16.7

② 仕事をしたくない理由

【問 28 で、「2」を選択した場合にお答えください。】

問 28-1 仕事はしたくない、できないという理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 仕事をしたくない理由は、全体では「高齢のため」が71.0%と最も高く、次いで「障がいが重い、病弱である」が29.5%、「自分に合う(できる)仕事がない」が13.0%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい及び精神障がいは「障がいが重い、病弱である」が5割台と身体障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=193	身体障がい n=169	知的障がい n=14	精神障がい n=14
障がいが重い、病弱である	29.5	29.0	50.0	57.1
働く場が見つからない	8.8	5.9	28.6	21.4
賃金が低いなど、労働条件が悪い	1.0	0.6	0.0	14.3
自分に合う(できる)仕事がない	13.0	8.9	35.7	42.9
通勤が困難である	7.3	5.3	7.1	28.6
家事・育児・介助・介護のため	3.6	3.6	0.0	7.1
職場の人間関係がわずらわしい	3.6	1.8	7.1	28.6
働くことが不安である	12.4	10.1	21.4	28.6
高齢のため	71.0	75.7	21.4	57.1
その他	9.8	8.9	14.3	14.3
不明・無回答	2.1	2.4	0.0	0.0

(7) 障がい者の就労支援として必要なこと

問 29 あなたは、ふだん近所の方とどの程度の付き合いをされていますか。(○は1つだけ)

- 障がい者の就労支援として必要なことは、全体では「職場に障がい者への理解があり、介助や援助などが受けられること」が 26.0%と最も高く、次いで「通勤手段の確保」が 22.5%、「短時間勤務や勤務日数などの配慮」が 21.5%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「いろいろな仕事が体験できる職場実習」が、精神障がいは「短時間勤務や勤務日数などの配慮」「通院時間の確保や服薬管理など医療上の配慮」「企業ニーズに合った就労訓練」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
通勤手段の確保	22.5	19.1	41.8	36.7
勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮	15.4	16.1	12.7	23.3
短時間勤務や勤務日数などの配慮	21.5	20.4	25.5	43.3
在宅勤務の拡充	11.1	9.9	10.9	23.3
職場に障がい者への理解があり、介助や援助などが受けられること	26.0	20.4	47.3	46.7
通院時間の確保や服薬管理など医療上の配慮	13.8	11.8	16.4	33.3
いろいろな仕事が体験できる職場実習	14.6	9.9	40.0	33.3
障がい者雇用のきっかけづくり(トライアル雇用)	11.9	9.5	20.0	23.3
企業ニーズに合った就労訓練	8.8	6.6	16.4	23.3
就労後、職場に適應できるような支援(ジョブコーチなど)	11.4	7.9	23.6	26.7
就職者や事業所との連絡調整や相談支援を行う就労定着支援	14.1	10.9	30.9	26.7
その他	3.7	3.9	3.6	3.3
不明・無回答	47.5	52.3	20.0	26.7

5 周囲の方たちとのつながりについて

(1) 近所の方との付き合いの程度

問 30 あなたは、ふだん近所の方との程度の付き合いをされていますか。(○は1つだけ)	
●	近所の方との付き合いの程度は、全体では「ある程度親しく付き合っている」が 36.1%と最も高く、次いで「会えばあいさつする程度の付き合いである」が 35.0%、「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」が 14.3%となっています。
●	手帳所持状況別にみると、知的障がい者は「会えばあいさつする程度の付き合いである」が、精神障がい者は「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
家族ぐるみでとても親しく付き合っている	7.2	7.2	9.1	6.7
ある程度親しく付き合っている	36.1	39.8	12.7	10.0
会えばあいさつする程度の付き合いである	35.0	33.6	43.6	36.7
ほとんど(もしくはまったく)付き合いはない	14.3	11.8	29.1	36.7
不明・無回答	7.4	7.6	5.5	10.0

(2) 地域の方の支え

問 31 あなたは今、地域の方に支えられていると思いますか。(○は1つだけ)	
●	地域の方の支えは、全体では「どちらかという、支えられていると思う」が 33.7%と最も高く、次いで「支えられていると思う」が 19.4%となり、合計すると『支えられていると思う』は 53.1%となっています。「どちらかという、支えられているとは思わない」と「支えられているとは思わない」を合計した『支えられているとは思わない』は 34.2%となっています。
●	手帳所持状況別にみると、精神障がい者は『支えられているとは思わない』が6割強と他の障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
支えられていると思う	19.4	18.4	25.5	13.3
どちらかという、支えられていると思う	33.7	37.2	16.4	10.0
どちらかという、支えられているとは思わない	14.6	12.8	18.2	30.0
支えられているとは思わない	19.6	17.8	29.1	33.3
その他	2.9	3.6	5.5	0.0
不明・無回答	9.8	10.2	5.5	13.3

(3) 悩みごとなどの相談相手

問 32 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- 悩みごとなどの相談相手は、全体では「家族や親せき」が72.9%と最も高く、次いで「友人・知人」が27.3%、「かかりつけの医師や看護師」が24.1%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、精神障がいでは「かかりつけの医師や看護師」が3割台半ばと他の障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
家族や親せき	72.9	72.7	76.4	60.0
友人・知人	27.3	30.6	7.3	16.7
近所の方	9.8	10.2	7.3	0.0
職場の上司や同僚	5.8	4.6	10.9	13.3
施設の指導員など	7.7	5.6	16.4	13.3
ホームヘルパーなどサービス事業所の方	5.0	5.3	3.6	6.7
障がい者団体や家族会	1.6	1.0	0.0	6.7
かかりつけの医師や看護師	24.1	24.7	12.7	36.7
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	7.7	8.6	3.6	10.0
民生委員・児童委員	4.0	4.6	3.6	3.3
通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	1.3	0.3	7.3	0.0
相談支援事業所などの民間の相談窓口	3.2	1.3	9.1	13.3
市役所の相談窓口	7.7	7.6	12.7	6.7
その他	5.3	4.9	9.1	16.7
不明・無回答	10.1	10.5	5.5	10.0

(4) 相談するときに必要なと思うこと

問 33 あなたが相談するとき、必要だと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 相談するときに必要なと思うことは、全体では「身近なところに相談窓口がある」が29.7%と最も高く、次いで「わかりやすい情報提供」が25.7%、「特にない」が22.0%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい者は「相談機関の間で連携がとれていること」が、精神障がい者は「電話・ファックス・Eメールなどで相談できる」「同じ立場にある障がい者やその家族に相談できる」「1カ所でいろいろな問題について相談できる」「同じ方に長期間にわたって相談できること」「個人情報の保護や、プライバシーへの配慮」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
身近なところに相談窓口がある	29.7	27.0	41.8	40.0
休日や夜間にも相談できる	13.8	12.2	18.2	23.3
電話・ファックス・Eメールなどで相談できる	14.1	12.2	14.5	36.7
自宅に訪問してくれる	19.1	18.4	29.1	26.7
専門家による相談・助言が受けられる	19.9	16.8	36.4	36.7
同じ立場にある障がい者やその家族に相談できる	11.4	9.9	21.8	30.0
1カ所でいろいろな問題について相談できる	20.2	20.1	18.2	26.7
同じ方に長期間にわたって相談できること	15.1	13.2	18.2	36.7
相談機関の間で連携がとれていること	17.8	15.1	32.7	26.7
わかりやすい情報提供	25.7	23.7	32.7	36.7
個人情報の保護や、プライバシーへの配慮	20.2	18.8	18.2	30.0
特にない	22.0	23.0	21.8	10.0
その他	1.9	2.0	5.5	0.0
不明・無回答	14.9	16.8	1.8	13.3

(5) 障がい者が地域や社会に積極的に参加していくために大切なこと

問 34 障がい者が地域や社会に積極的に参加していくために、どのようなことが大切だと思いますか。
(〇は3つまで)

- 障がい者が地域や社会に積極的に参加していくために大切なことは、全体では「障がい者自身の積極的な参加」が 27.3%と最も高く、次いで「利用しやすい施設への改善」が 25.7%、「移動のための手段（車両や介助者）の確保」が 22.3%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「参加を補助するボランティアなどの育成」が他の障害よりも高くなっています。精神障がいは「地域の方たちが障がい者を受け入れるよう、広報や福祉教育の充実」が4割台半ばと最も高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
魅力的な行事やイベントの充実	21.5	18.1	34.5	33.3
利用しやすい施設への改善	25.7	25.7	25.5	23.3
移動のための手段(車両や介助者)の確保	22.3	21.7	30.9	30.0
地域の方たちが障がい者を受け入れるよう、広報や福祉教育の充実	19.9	17.1	36.4	46.7
参加を補助するボランティアなどの育成	11.7	11.2	23.6	3.3
家族の積極的な参加	10.1	7.9	20.0	23.3
障がい者自身の積極的な参加	27.3	25.3	29.1	30.0
その他	2.7	2.3	3.6	6.7
特になし	18.0	18.8	16.4	10.0
不明・無回答	18.3	20.4	3.6	13.3

6 災害時の避難や防犯について

(1) 防災マップやハザードマップなどでの避難場所などの確認状況

問 35 防災マップやハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。(1つだけ○)
<ul style="list-style-type: none"> ● 防災マップやハザードマップなどでの避難場所などの確認状況は、全体では「確認している」が59.7%となり、「確認していない」の31.8%を上回っています。 ● 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「確認していない」が5割強と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
確認している	59.7	62.5	45.5	53.3
確認していない	31.8	28.3	52.7	40.0
不明・無回答	8.5	9.2	1.8	6.7

(2) 一人で避難することができるかについて

問 36 あなたは火事や地震などの災害時に、一人で避難することができますか。(1つだけ○)
<ul style="list-style-type: none"> ● 一人で避難することができるかについては、全体では「できる」が38.5%と最も高く、次いで「できない」が37.7%、「わからない」が18.8%となっています。 ● 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「できない」が5割台半ばと最も高くなっています。精神障がいは「わからない」が3割と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
できる	38.5	40.8	25.5	33.3
できない	37.7	37.2	54.5	33.3
わからない	18.8	17.1	18.2	30.0
不明・無回答	5.0	4.9	1.8	3.3

(3) 近所に助けてくれる人がいるかについて

問 37 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなただを助けてくれる人はいますか。(1つだけ○)

- 近所に助けてくれる人がいるかについては、全体では「わからない」が 32.4%と最も高く、次いで「いる」が 28.6%、「いない」が 27.3%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、精神障がいでは「いない」が5割強と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
いる	28.6	30.9	12.7	20.0
いない	27.3	22.4	43.6	53.3
わからない	32.4	34.2	36.4	20.0
不明・無回答	11.7	12.5	7.3	6.7

(4) 避難行動要支援者名簿への登録状況

問 38 災害時に避難誘導や情報伝達などの支援が受けられるように、避難行動要支援者名簿に登録した住所や氏名、身体状況などの個人情報、災害時に備えてあらかじめ、地域の自主防災組織などの支援者に提供しています。この制度に登録していますか。また、登録の希望はありますか。(○は1つだけ)

- 避難行動要支援者名簿への登録状況は、全体では「わからない」が 48.8%と最も高く、次いで「登録したい」が 18.8%、「登録したくない」が 10.9%となっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
登録したい	18.8	20.1	21.8	20.0
登録したくない	10.9	10.9	10.9	13.3
わからない	48.8	46.7	50.9	50.0
すでに登録している	8.5	9.2	9.1	6.7
不明・無回答	13.0	13.2	7.3	10.0

(5) 災害時に心配なこと

問 39 火事や地震などの災害時に心配なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 災害時に心配なことは、全体では「避難所の設備（トイレやベッドなど）や生活環境が不安」が 36.6%と最も高く、次いで「一人で避難することができない」が 32.1%、「助けを求めるのがむずかしい」が 22.5%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がい者は「一人で避難することができない」「助けを求めるのがむずかしい」が、精神障がい者は「投薬や治療など医療的ケアが受けられない」「情報を入手しにくい」「避難場所や避難所、福祉避難所がわからない」「周囲とコミュニケーションがとれない」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
助けを求めるのがむずかしい	22.5	20.4	49.1	26.7
周囲の理解と支援が得られない	7.4	4.6	23.6	23.3
避難所の設備(トイレやベッドなど)や生活環境が不安	36.6	37.2	38.2	36.7
投薬や治療など医療的ケアが受けられない	23.3	25.0	16.4	33.3
情報を入手しにくい	13.5	10.9	25.5	33.3
緊急時の連絡手段がない	10.3	8.6	23.6	16.7
補装具や日常生活用具の入手・使用が困難になる	11.4	13.2	9.1	3.3
身体の清潔保持がむずかしい	17.5	16.4	25.5	26.7
一人で避難することができない	32.1	30.3	56.4	36.7
介助者も避難がむずかしい	4.2	3.6	7.3	6.7
避難場所や避難所、福祉避難所がわからない	9.0	7.6	12.7	23.3
通常の食事がむずかしい(飲食物のそしゃくや祖見込みが飲み込みがむずかしい)	6.9	7.2	9.1	3.3
周囲とコミュニケーションがとれない	11.9	6.3	38.2	43.3
特に問題はないと思う	19.6	21.1	14.5	10.0
その他	2.9	3.0	1.8	3.3
不明・無回答	16.4	17.1	7.3	16.7

(6) 消費者被害について

① 消費者被害にあったこと

問 40 商品やサービスの購入、取引などの際に、経済的な損失を被る消費者被害にあったことはありますか。(○は1つだけ)

- 消費者被害にあったことは、全体では「ない」が 79.3%と最も高く、次いで「ある」が 4.2%、「あいそうになったことがある」が 3.2%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、精神障がい「ある」「あいそうになったことがある」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
ある	4.2	3.9	3.6	10.0
あいそうになったことがある	3.2	2.6	1.8	10.0
ない	79.3	79.6	87.3	66.7
不明・無回答	13.3	13.8	7.3	13.3

② 消費者被害にあった際の相談先

【問 40 で、「1」「2」を選択した場合にお答えください。】

問 40-1 その際にどこ(誰)かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 消費者被害にあった際の相談先は、全体では「家族」が 57.1%と最も高く、次いで「特にどこ(誰)にも相談していない」が 28.6%、「友人」が 14.3%となっています。

(%)

	全体 n=28	身体障がい n=20	知的障がい n=3	精神障がい n=6
家族	57.1	60.0	100.0	16.7
友人	14.3	15.0	0.0	0.0
市の消費生活相談窓口	10.7	5.0	33.3	16.7
警察	10.7	10.0	0.0	16.7
その他	7.1	10.0	33.3	0.0
特にどこ(誰)にも相談していない	28.6	25.0	0.0	50.0
不明・無回答	0.0	0.0	0.0	0.0

7 障がい者への理解や権利について

(1) 障がいがあることで差別や嫌な思いをした経験

① 障がいがあることで差別や嫌な思いをした経験

問 41	あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。(○は1つだけ)
●	障がいがあることで差別や嫌な思いをした経験は、全体では「ない」が 66.8%となり、「ある」の 19.1%を上回っています。
●	手帳所持状況別にみると、知的障がい及び精神障がいは「ある」の割合が身体障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
ある	19.1	13.8	47.3	53.3
ない	66.8	72.7	38.2	33.3
不明・無回答	14.1	13.5	14.5	13.3

② 差別や嫌な思いをした場所

【問 41 で、「1」を選択した場合にお答えください。】	
問 41-1 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)	
●	差別や嫌な思いをした場所は、全体では「学校・仕事場」が 45.8%と最も高く、次いで「住んでいる地域」が 40.3%、「外出先」が 38.9%となっています。
●	手帳所持状況別にみると、知的障がいは「外出先」「住んでいる地域」が、精神障がいは「学校・仕事場」「病院などの医療機関」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=72	身体障がい n=42	知的障がい n=26	精神障がい n=16
学校・仕事場	45.8	28.6	57.7	75.0
仕事を探するとき	15.3	11.9	19.2	18.8
外出先	38.9	38.1	50.0	31.3
余暇を楽しむとき	15.3	11.9	11.5	18.8
病院などの医療機関	23.6	19.0	23.1	43.8
住んでいる地域	40.3	40.5	53.8	25.0
不明・無回答	1.4	2.4	0.0	0.0

(2) 村山市民の障がい者に対する理解

① 村山市民の障がい者に対する理解度について

問 42 村山市民の障がい者に対する理解度はどのくらいだと思いますか。(○は1つだけ)

- 村山市民の障がい者に対する理解度については、全体では「わからない」が 57.3%と最も高く、次いで「低い」が 12.5%となり、「とても低い」と合計した『低い』は 17.8%となっています。「とても高い」と「高い」を合計した『高い』は 13.0%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、『低い』は知的障がい者が3割台半ば、精神障がいは4割となり、身体障がいよりも高くなっています。

	(%)			
	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
とても高い	1.3	1.0	1.8	0.0
高い	11.7	12.2	10.9	13.3
低い	12.5	10.9	20.0	23.3
とても低い	5.3	3.3	16.4	16.7
わからない	57.3	60.5	45.5	40.0
不明・無回答	11.9	12.2	5.5	6.7

② 障がい者への理解を高めるために必要なこと

【問 42 で、「3」「4」のいずれかを選択した場合にお答えください。】

問 42-1 障がい者への理解を高めるためには、どんなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 障がい者への理解を高めるために必要なことは、全体では「市における情報提供」「学校などにおける福祉教育」が同率で 44.8%と高く、次いで「障がい者団体による啓発活動やその支援」が 34.3%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、身体障がいは「学校などにおける福祉教育」が5割強と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=67	身体障がい n=43	知的障がい n=20	精神障がい n=12
市における情報提供	44.8	44.2	35.0	41.7
学校などにおける福祉教育	44.8	51.2	45.0	41.7
講演会や研修会の開催	20.9	14.0	20.0	33.3
障がい者団体による啓発活動やその支援	34.3	30.2	30.0	41.7
学習機会の充実	20.9	18.6	20.0	33.3
ボランティア活動への参加促進やその支援	29.9	30.2	30.0	25.0
その他	7.5	9.3	5.0	16.7
不明・無回答	6.0	4.7	15.0	0.0

(3) 成年後見制度の認知

問 43 成年後見制度とは、知的障がいや精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていましたか。(1つだけ○)

- 成年後見制度の認知は、全体では「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 34.7%と最も高く、次いで「名前も内容も知らない」が 34.5%、「名前も内容も知っている」が 17.5%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、知的障がいは「名前も内容も知らない」が5割強と他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
名前も内容も知っている	17.5	17.4	18.2	30.0
名前を聞いたことはあるが、内容は知らない	34.7	36.8	21.8	36.7
名前も内容も知らない	34.5	31.6	52.7	26.7
不明・無回答	13.3	14.1	7.3	6.7

8 市（県）等の取組みについて

（1）市（県）などが実施しているサービスの認知

問 44 あなたは、市(県)などが実施している以下のサービスを知っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 市（県）などが実施しているサービスの認知は、全体では「身体障がい者等用駐車施設利用証」が50.7%と最も高く、次いで「福祉タクシー（リフト付きタクシー）券」が49.9%、「福祉給油券」が43.2%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、身体障がいは「身体障がい者等用駐車施設利用証」が、精神障がいは「いずれも知らない」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
福祉タクシー(リフト付きタクシー)券	49.9	50.3	52.7	40.0
福祉給油券	43.2	46.4	36.4	33.3
身体障がい者等用駐車施設利用証	50.7	56.6	32.7	26.7
有料道路(高速道路)の割引	36.6	38.8	41.8	16.7
NHK放送受信料の減免	34.5	35.9	29.1	33.3
いずれも知らない	18.0	15.5	18.2	40.0
不明・無回答	8.0	8.2	9.1	6.7

(2) 障がいのサービス等の情報の入手先

問 45 あなたは、障がいのサービス等の情報をどこから入手しますか。(あてはまるものすべてに○)

- 障がいのサービス等の情報の入手先は、全体では「市報「市民の友」」が49.6%と最も高く、次いで「特に情報は入手していない」が23.9%、「家族や友人」が21.2%となっています。
- 手帳所持状況別にみると、身体障がいは「市報「市民の友」」が、知的障がいは「相談支援事業所」が、精神障がいは「かかりつけの医師や看護師」「特に情報は入手していない」の割合が他の障がいよりも高くなっています。

(%)

	全体 n=377	身体障がい n=304	知的障がい n=55	精神障がい n=30
市報「市民の友」	49.6	52.6	34.5	43.3
相談支援事業所	15.4	14.1	27.3	20.0
かかりつけの医師や看護師	15.4	16.4	3.6	30.0
家族や友人	21.2	21.4	25.5	13.3
その他	6.1	5.3	12.7	10.0
特に情報は入手していない	23.9	23.7	18.2	33.3
不明・無回答	7.7	7.9	5.5	3.3

9 自由意見について

最後に、障がい福祉サービスや行政の取組みについて、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

- 自由意見については、記入者数は 80 人、内容を分類した記入件数は 85 件となっています。内容を分類すると、

順位	内容	件数
1	市の取組等について	34
2	住まいや暮らしについて	16
3	日中活動や就労について	16
4	障がい者への理解や権利について	6
5	障害福祉サービスなどの利用について	5
6	アンケートについて	3
7	周囲の方たちとのつながりについて	2
-	その他	1
合 計		83

【主な意見】

① 市の取組等について

- 障がい者はいろいろな人が多くいます。まず、市担当者や民生委員等が本人（障がい者）のプライバシーに気を付けてもらいたいです。※プライバシー保護が大変重要です。
- 今は一人でこなせていることも、今後できなくなってきたとなった時の相談窓口がどこなのかも分からない。とりあえず市役所と思っているが、それでいいのか。今後老化等により様々な症状が出て状況が変わった時、どこに相談するか、市報等に分かりやすく載せて欲しい。
- 身体障害者手帳の手続きを市役所でした時に、障害者年金があることを教えていただくと助かる人がいると思います。
- グループホームなど自立や一人暮らしする人向けの案内があったほうが良いと思います。
- 一人暮らしで障がいを持ってしまった場合の行政の補助や支援が充実すると、多くの市民の不安が少なくなると思う。特に医療面や経済面での支援の充実を望みます。
- 今は過渡期なのかもしれないけど、適切な支援につながれていない人も多いと思います。特に「グレーゾーン」と呼ばれる人たちが、一見して分かる障がい以上に、そうとは分からない人たちへの物心両方の支援が必要だと思います。
- 各個人に情報が届かないから何も分からない。どの様なサービス等があるのか全然分かりません！
- 発達障害者の当事者会に月 1 回ほど参加していますが、山形まで片道 1 時間かけて車で行っています。村山市にも精神、発達障害者が集まれる場所があるとうれしいです。精神保険福祉手帳の更新が近くなったら通知などしてくれると有難いです。福祉サービスが身体、知的障害の人に偏っている気がします。精神、発達障害の人が利用できる福祉サービスを充実させてほしいです。

- 障害者に対する相談頂きありがとうございます。これからもよろしく申し上げます。
- 放課後等デイサービスの充実、日中一時支援、短期入所施設、市独自で無理なら、近隣市町村と連携をして施設を増やしてほしい。家族の負担が多い。福祉施設等の整備が遅れていると思う。もう少しどうにかしてほしい（早急に！）。

② 住まいや暮らしについて

- 家族全員が高齢化していくことに不安を感じる。
- 夫が死亡したので、1人になってどう暮らしていこうかと心配しています。これから寒くなるので心配です。石油などもらう事ができませんか。
- 成人から65才未満の人の障がい者もいるのでもう少し援助、補助などがあると良いのですが、特に母と子の二人の家庭などに援助をお願いします。
- 家族が仕事に出ている時は日中、独りで過ごしています。医療的ケアが必要で高度難聴のため、防災無線は全く聞こえず、災害避難が大変心配です。以前は在宅酸素濃縮器使用の電気代を市から頂いておりましたが中止になり、家族への負担が大きくなるのではないかと心苦しい日々を送っています。電気代負担の継続を願います。
- 年金で生活してる人に対して生活補助してほしい。
- 今住んでいる家は古く、段差もあり、車イスの移動すらできません。市からの援助を本当にお願います。どうしたらいいか助けてほしいです。この先、年老いて介護ができなくなった時の子どもの行き先が心配でなりません。
- 降雪時、自宅前の除雪した後の片付けが困難。
- 親がいるうちはまだいいが、親も年を取ったり、いつかはいなくなるので、一人で暮らせるか心配である。市内には入所施設もない。

③ 日中活動や就労について

◎外出関連

- 病院、医院、買い物に行くとき家族が日中留守なので、もう少しタクシー券をふやしてもらいたい。
- 買い物タクシーがほしい。バスの停留所まで遠いので足が悪く歩くのに困難。障がい者の駐車所の利用証を持っているが、持っていない人の駐車が多い。なんとかならないのか？

◎就労関連

- 村山市に就労支援施設を作ってもらいたい。東根市の施設は定員一杯だが増え続け、施設内が狭く、食事、仕事、トイレが困る事があるようです。
- パートとして働いている。障害者のスキルアップと、正職員化の可能性の向上のための支援・助成もあるとしたら、受けてみたいと思う次第です。
- 就労支援B型の利用人数枠を広げてほしい。

◎障がい児関連

- 障がいや持病を持つ子どもも、健常児と同じ保育時間や保育内容（行事）を受けられるように希望します。色んな体験をしてほしい。たくさんお友達と関わってほしいです。そのためには、私達家族も協力したいと考えています。

- 介護者や家族が病気や冠婚葬祭の時など一時的に預かってくれる所がありません。県の施設も民間からも断られています。相談していますが見つかりません。未来に不安しかありません。障がいのある子どもの親の交流の場があると、小学校入学や自分の子どもがどこの学校に行ったら良いか、合うのか、入学時の準備など聞いたりできる。就労などの話も聞いてみたい。
- まだ小さいため、家族に支えられて生活している。支援事業所に通いながら、社会生活において必要となることを学びながら、地域に支えてもらって充実した生活を送りたいと思っている。
- 子どもが小学校へ入学しますが、放課後等デイサービスを検討した時、長期休み時の受入れの時間が遅く利用出来ない。また放課後デイの空きも少なく残念です。父母、祖父母も仕事をしているため、放課後デイを利用したいのに…。

④ 障がい者への理解や権利について

- 小学生とかに体験で、車椅子、目隠して歩くとかさせて、大変さを分かってもらうといいと思います。
- 知人、知ってる人に対しては親切だが、知らない人に対しては冷たい気がする。
- 集団行動が苦手で、集団による運動・会食が難しい人もいるので、このような方への理解を深める取組を行って欲しい。
- 知的障がいであることを他人に理解とか、分かるように表明するもの(ヘルプマークも知らない方が多い)があれば、本人やその両親が安心に過ごせるんじゃないかなと思います。

⑤ 障害福祉サービス全般について

- 障がい福祉サービスに懸命に取り組んでいること、障がい者の一人として感謝しております。障がいの程度の幅があり、難問であると思われます。
- 生活介護を利用していますが、人員不足のためか十分なサービスを受けることができていない。(週1回で2時間だけの利用しかできない状態で困っている。)
- ただ好きな時に集まれて、一日を過ごせる「デイサービス」的な所が青年～壮年の年代(就学以降)にあってほしい。引きこもりを見過ごさないで欲しい。山形市に集中して施設が多いのに、探しても村山になく、カウンセリングに行けばボッタクリに騙されるし、ほとんど淋しい思いをしている。

⑥ アンケートについて

- アンケートを頑張って毎年時間かけて書いたところで、何の変化も見られないし、結果の共有もないなら廃止してください。
- きれいなアンケートですが読みにくく見づらいです。「アンケート調査は以上で終わりです。」くらいの字の大きさがいいです。行政言葉が多く理解しにくいです。

⑦ 周囲の方たちとのつながりについて

- 地区の役員が誰なのか分かりません。催物等聞いた事もないので、連絡の方は全然ございません。

村山市障がい者福祉プラン（第5次） 策定に係るアンケート調査 報告書

発行年月：令和6年3月

編集：村山市（村山市福祉課・子育て支援課）

〒995-8666

山形県村山市中央一丁目3番6号

電話：0237(55)2111(代表)

FAX：0237(55)7577

E-Mail：fukushi@city.murayama.lg.jp

URL：https://www.city.murayama.lg.jp
